

## TPP 通信 NO.6:

### < TPP 協定：第 12 回交渉会合の概要 >

#### ・交渉参加 9 カ国による会合及び交渉の全体像

5 月 8 日～16 日にかけて、交渉参加 9 カ国による会合が米国（ダラス）にて行われた。会合の成果として、①投資、商用関係者の移動、原産地規則、知的財産、サービス貿易、市場アクセス、税関手続、労働及び環境等に関する事項の前進、②規制制度間の整合性、TPP 参加国間のサプライ・チェーンの深化、開発の促進、といった分野的事項についての前進、等を上げ、カーク米通商代表は、「最も躍動的で力強い貿易の自由化を行い、雇用を創出する進んだ協定とするべく取り組んでいる。」と今回の交渉会合について評価した。

また、「新規交渉参加国の扱い」については、各国が行っている日本、カナダ、メキシコとの二国間協議に関する意見交換も行われた。

#### ・新規交渉参加国について

その後、メキシコ、カナダについては、TPP 交渉参加 9 カ国により相次いで交渉への参加が支持され、手続終了後正式に交渉入りが決まる状況、日本は、参加の表明も支持も得るまでには至らず足踏み状態、一步遅れをとった格好になった。メキシコ、カナダの交渉入りの背景には、例えば、商標の国際登録に関する協定の批准、医薬品の試験データの保管期間の延長、模倣品・海賊版拡大防止条約の署名、また、交渉参加 9 カ国が将来合意する内容に対して拒否権を行使しないなどの「前払い」とも言える譲歩があったのではとの見方もあるが、そうした条件の有無については明らかにされていない。米国政府は、日本の「自動車」「保険」「牛肉」の市場開放や規制の見直しに関心を示しており、この問題が今後の焦点の一つになるとみられている。

## <日本の国内情勢>

### ・民主党内の情勢について

消費増税法案の採決を巡り、民主党小沢一郎元代表に近いグループ約 50 名が除名、もしくは自ら党を離れることとなった。その多くは T P P 交渉参加に慎重姿勢であるため、今後の国会審議で、彼らは重要な役割を担うことになりそうだ。一方で民主党から見れば、反対派が離れたことで T P P を進めやすい環境が整ってきたとも言え、野田首相も早期の参加表明に前向きな姿勢を示している。

## <今後の見通し>

第 13 回交渉会合が今月 10 日まで米サンディエゴで開かれ、ルール作りに一定の進展があったとされる。米政府はメキシコ、カナダを T P P 交渉に加えるよう議会に通告しており、日本がメキシコ、カナダ両国と一緒に交渉入りをするためには 8 月中の参加表明が必要になり、民主党内の懸命な環境作りが進んでいるとされる。だが、党に残った非主流派は T P P を野田政権の攻撃材料に据えており、小沢新党や他の野党との連携を模索する動きも活発である。

## <感想>

＊ ＊ T P P 参加表明については、しばらく足踏み状態が続いていましたが、ここに来て一気に騒がしくなってきました。「新党」含め反対派の動きが鍵になるとは思いますが、「新党」小沢氏自身はもともと市場開放論者ですし、T P P 参加を主張する「大阪維新の会」との連携も示唆しています。反対派の意見が足並み揃うかどうかは今後の政局次第といったところでしょうか。いずれにしろ交渉参加に向けて、かなり急ピッチで調整が進んでいくことは間違いないような状況です。 ＊ ＊

## <今後の日程>

9月8日	: 国会延長の会期末
9月8、9日	: A P E C 首脳会議
9月中	: T P P 首脳会合、9カ国会合
11月6日	: 米国大統領選
年内	: 交渉国による実質合意の目標時期

以 上